

履歴と業績

三輪, 宗弘
九州大学 : 教授

<https://doi.org/10.15017/7344004>

出版情報 : エネルギー史研究 : 石炭を中心として. 40, pp.1-18, 2025-03-25. 九州大学附属図書館付設
記録資料館産業経済資料部門
バージョン :
権利関係 :



履 歴 と 業 績

三 輪 宗 弘

〈履歴〉

昭和五三年	三月	三重県立桑名高等学校理科卒業
昭和五八年	三月	東京工業大学高分子工学科卒業
昭和五八年	四月	東京工業大学理工学研究科 社会工学専攻 修士課程入学
昭和六〇年	三月	東京工業大学理工学研究科 社会工学専攻 修士課程修了
昭和六〇年	四月	東京工業大学理工学研究科 社会工学専攻 博士課程入学
平成二年	三月	東京工業大学理工学研究科 社会工学専攻 博士課程単位取得後退学
平成三年	四月	日本大学生産工学部 非常勤講師（平成七年三月まで）
平成三年	四月	九州大学石炭資料研究センター学外研究員
平成三年	四月	早稲田大学現代政治経済研究所特別研究員（平成四年三月まで）
平成三年	四月	富士短期大学 非常勤講師（平成七年三月まで）
平成七年	四月	九州共立大学 経済学部専任講師
平成一〇年	一月	九州共立大学 経済学部助教授（平成一六年一月まで）
平成一六年	二月	九州大学石炭研究資料センター教授（平成一七年三月まで）

平成一六年一二月 九州大学大学院比較社会文化学府兼任

平成一七年 四月 九州大学 附属図書館付設記録資料館（産業経済資料部門）教授

平成一九年 四月 九州大学附属図書館付設記録資料館館長（平成二七年三月まで）

平成二一年 九州大学附属図書館研究開発室兼任（現在に至る）

平成二二年 福岡県文化財保護審議会専門委員（史跡部会）（現在に至る）

平成二二年 七月 九州大学大学院統合新領域学府ライブラリーサイエンス専攻（修士課程）教授 M〇合

平成二三年 四月 九州大学統合新領域学府兼任

平成二四年 四月 九州大学統合新領域学府副学府長（ライブラリーサイエンス専攻長、平成二七年三月まで）

平成二四年 八月 九州大学大学院統合新領域学府ライブラリーサイエンス専攻（博士課程）教授 D〇合

平成二五年 独立行政法人石油天然ガス・金属鉱物資源機構（JOGMEC）、入札監視委員会 委員（平成二八年度まで）

平成二九年 独立行政法人石油天然ガス・金属鉱物資源機構（JOGMEC）入札監視委員会 委員長（現在に至る）

平成三〇年 福岡県立博多青松高等学校、博多青松グローバル人材育成プログラム D-Iodo（高大連係授業 2コマ〜3コマ毎年担当し、現在に至る）

令和 六年 四月 九州大学統合新領域学府副学府長（ライブラリーサイエンス専攻長、令和七年三月まで）

付記 東京工業大学大学院進学後、香西泰教授の紹介で、東京大学本郷の中村隆英教授のゼミに参加した。

〈業績〉

【一九八四年】

〔発表〕「第一次世界大戦時の輸入杜絶と合成染料の工業化——軍・企業・農商務省の対応——」（日本科学史学会、京都大学、昭和五九年六月）

【一九八五年】

〔論文〕「修士論文」人造石油製造計画とその挫折——戦前日本の液体燃料問題——」東京工業大学、学位記六〇年三月二六日、昭和六〇年二月）

〔発表〕「海軍燃料廠における石炭液化研究」（日本科学史学会、立正大学、昭和六〇年六月）

〔発表〕「対米英蘭戦争と人造石油計画の挫折——「臥薪嘗胆」の背景——」（軍事史学会、日本大学、昭和六〇年九月）

【一九八六年】

〔その他〕「ご教示いただいた思い出」（「江口孝回想録」編集委員会『江口孝回想録』、非売品、昭和六一年三月、233～236頁）

〔発表〕「海軍燃料廠の取組んだメタノール工業化とその展開」（化学史学会、日本大学商学部、昭和六一年一〇月）

【一九八七年】

〔論文〕「対英米蘭開戦と人造石油製造計画の挫折——「臥薪嘗胆」論の背景——」（日本歴史、465号、昭和六二年二月、61～78頁）

〔論文〕「海軍燃料廠の石炭液化研究——戦前日本の技術開発——」（化学史研究、41号、昭和六二年二月、164～175頁）

【一九八八年】

〔論文〕「E・H・カーの国際政治観の再検討——その「リアリズム」と「ユートピア」について——」（軍事史学、24巻1号、93号、昭和六三年六月、24～40頁）

〔発表〕「軍需から民需への転換——旧海軍燃料廠の硫酸肥料工場への転換——」（経営史学会関東部会二月例会、東京大学、昭和六三年二月）

【一九八九年】

〔論文〕「軍需から民需への転換——旧第二海軍燃料廠から硫酸肥料工場へ——」（経営史学、24巻3号、平成元年一〇月、58～76頁）

【一九九〇年】

〔論文〕「F・D・ローズベルト大統領とH・L・イッキーズ内務省長官の書簡交換を読む——南部仏印進駐以前の対日石油政策をめぐる見解の対峙」（海

軍史研究、創刊号、平成二年一〇月、102～109頁）

【一九九二年】

〔論文〕「米国の初期対日占領政策——海軍燃料廠をどうするか——」（『海軍史研究』、第2号、平成四年三月、19～38頁）

〔論文〕「日独伊三国同盟締結時における、日独伊ソ構想への疑問——松岡構想説への疑問——」（日本大学生産工学部研究報告B、25巻1号、平成四年六月、21～39頁）

〔発表〕「人造石油と対米開戦経緯」（日本化学会第六四秋季年会連合討論会、新潟大学、平成四年一〇月）

【一九九四年】

〔発表〕「三井物産とニューヨーク・スタンダード石油会社の揮発油販売交渉をめぐって——三井物産の拒絶とソコニーの妥協——」（経営史学会関東部会一二月例会、立教大学、平成六年一二月）

【一九九五年】

〔共著書〕「エネルギー革命と原料転換 (The Energy Revolution and Conversion of Raw Materials from Coal to Oil)」『通史 日本の科学技（第二巻——自立期一九五二—一九五九）』、学陽書房、平成七年、281～294頁）

〔発表〕「満鉄のオイルシェールプラント導入と三井物産の海外支店情報活動」（経営史学会西日本部会六月例会、九州産業大学、平成七年七月）

【一九九六年】

〔論文〕「直方の鉄工業へのアプローチ——研究への視座——」（九州共立大学地域経済研究所『九共経済論集』、22号、平成八年三月、121～130頁）

〔共著書〕「三井物産とソコニーの揮発油販売契約の交渉過程——海外支店の情報と提携の模索——」（松本編『戦前期日本の貿易と組織間関係…情報・調整・協調』、新評論、平成八年四月、151～185頁）

〔発表〕「エネルギー革命と直方鉄工業の動き」（経営史学会西日本部会七月例会、九州産業大学、平成八年七月）

〔資料紹介・解題〕「海軍関係の史料紹介（その二）」（九州共立大学経済学部紀要』、65号、平成八年九月、1～8頁）

【一九九七年】

〔論文〕「直方鉄工業の変遷——石炭依存から脱石炭への過程——」（『九州共立大学経済学部紀要』、68号、平成九年三月、115～134頁）

〔論文〕「日米戦争と対米強硬論——石油禁輸後の海軍の「ギリ貧論」」（九州共立大学経済学部紀要」、72号、平成九年三月、107～116頁）

【一九九八年】

〔論文〕「戦時中海軍の石油補給政策と実情（上）——石油政策の破綻——」（『九州共立大学経済学部紀要』、73号、平成一〇年六月、75～8頁）

〔資料紹介・解題〕「野村駐米大使日記」（九州共立大学経済学部紀要、66号、平成一〇年六月、75～88頁、解題は59～64頁）

〔資料紹介〕「野村駐米大使日記（パートⅡ 2/4）」（『九州共立大学経済学部紀要』、77号、平成一〇年六月、73～90頁）

〔論文〕「戦時中海軍の石油補給政策と実情（中）——石油政策の破綻——」（『九州共立大学経済学部紀要』、74号、平成一〇年九月、49～66頁）

〔資料紹介〕「野村駐米大使日記（パートⅢ 3/4）」（『九州共立大学経済学部紀要』、78号、平成一〇年九月、31～48頁）

〔その他〕「アメリカ公文書館接収文書 RG一三一資料について——銀行・商社の在米支店の活動への手がかり——」（福岡県地域史研究所『県史だより』、平成一〇年九月、4～6頁）

〔論文〕「戦時中海軍の石油補給政策と実情（下）——石油政策の破綻——」（『九州共立大学経済学部紀要』、75号、平成一〇年二月、41～58頁）

〔資料紹介〕「野村駐米大使日記（パートⅣ 4/4）」（『九州共立大学経済学部紀要』、79号、平成一〇年二月、51～68頁）

【一九九九年】

〔発表〕「戦時中海軍の石油補給政策と実情——石油政策の破綻——」（経営史学会（西日本部会）・社会経済史学会（九州部会）合同部会、福岡大学セミナーハウス、平成一一年一月）

〔発表〕「三井物産とソコニーの揮発油販売契約の交渉過程」（経営行動情報学会九州部会、九州共立大学、平成一一年三月）

〔発表〕「不況下の直方鉄工業——脱石炭後、再び迫られる構造転換——」（社会経済史学会九州部会、九州共立大学、平成一一年一〇月）

【二〇〇〇年】

〔発表〕「直方鉄工業の変遷——脱石炭の成功と新たな危機——」（経営史学会西日本部会、福岡大学、平成一二年一〇月）

〔その他〕「直方鉄工業の一〇〇年の変遷」（直方鉄工協同組合『直方鉄工協同組合一〇〇周年記念誌 EXCEED 世紀を結ぶ』非売品、平成一二年一月、32～58頁）

〔発表〕「直方鉄工業の変遷——脱石炭の成功と新たな危機——」（経営史学会西日本部会創立25周年記念大会、大学セミナーハウス、平成一二年二月）

【二〇〇一年】

〔資料紹介・解題〕エグロフ博士講演速記録『大戦中に於ける米国製油工業進展の概要』（『エネルギー史研究』、16号、平成一三年三月、解題155～156、資料157～166頁）

【二〇〇三年】

〔発表〕「日米暫定協定案破棄とハルの一〇カ条提案——一九四一年一月二六日の米英の齟齬——」（社会経済史学会九州部会、九州大学、平成一五年一〇月）

【二〇〇四年】

〔著書（単書）〕『太平洋戦争と石油・戦略物資の軍事と経済』（日本経済評論社、平成一六年一月、378頁）
〔その他〕「太平洋戦争と石油」と海外アーカイブ」（日本経済評論社『評論』、142号、平成一六年四月、12～13頁）
〔辞典〕「野村吉三郎」（『近現代日本人物史料情報辞典1』、吉川弘文館、平成一六年七月、319～321頁）
〔書評〕「日本海軍火薬工業史の研究」（『経営史学』、39巻2号、平成一六年九月、81～83頁）
〔その他〕「戦時生産における軍工廠と民間企業」（『日本経営史の基礎知識』、有斐閣、平成一六年一〇月、238～239頁）

【二〇〇五年】

〔報告〕「米国国立公文書館とアーキビスト」（二一世紀のアーキビスト研究会、九州大学石炭研究資料センター、平成一七年一月）
〔報告骨子〕「米国国立公文書館とアーキビスト」（『平成一六年度九州大学箱崎文系地区社会貢献委員会活動報告』、平成一七年三月、102～113頁）
〔講演〕「なぜ学ぶのか」（西福岡高校、平成一七年三月）
〔共著書〕「Ch.21 The Energy Revolution」（Edited by Shigeru Nakayama, A Social History of Science and Technology in Contemporary Japan, Volume 2: Road to Self-reliance 1952-1959, Trans Pacific Press, pp.391-413, 平成一七年四月）
〔発表〕「九州大学記録資料館所蔵・石炭関係資料について」（日本科学史学会第五二回全国大会、北海道開拓記念館、平成一七年六月）
〔海外の大学での講演〕「太平洋戦争と蘭印の石油（Pacific War and Oil）」（Padjadjaran University、インドネシアバンドン、平成一七年九月）
〔発表〕「RG131の商社資料と米国の調査——石油と機械——」（経営史学会、神戸大学、パネル、平成一七年十一月）

〔海外の大学での講演〕「日米開戦と戦時中の補給問題、エネルギー転換」（吉林大学珠海学院、中国 珠海市、平成一七年一二月）
〔その他〕「九州大学所蔵の石炭資料について」（日本科学史学会編集『科学史研究』、45巻237号、平成一八年一月、52～53頁）

【二〇〇六年】

〔講演（解説）〕「炭鉱に生きる」（福岡市総合図書館映像ホール・シネラ、平成一八年一月）

〔講演〕「炭鉱（やま）は生きる——石炭資料が語り継ぐ——」、映画上映「炭鉱（やま）に生きる」（九州大学開学記念行事展示会講演、平成一八年五月）

〔発表〕「戦前・戦時中の航空機揮発油の技術開発——海外技術導入と独自技術——」（特定領域研究「日本の技術革新」、国立科学博物館、平成一八年六月）

〔その他（発表要旨）〕「戦前・戦時中の航空機用揮発油の技術開発——海外技術導入と独自技術——」（国立科学博物館『日本の技術革新——経験蓄積と知識基盤化——／第二回フォーラム報告』、平成一八年九月、73～76頁）

〔書評〕「炭鉱の真実と栄光——朝鮮人強制連行の虚構」（『政界往来』、72巻12号、平成一八年一二月、59頁）

〔書評〕「奈倉文二・横井勝彦編著『日英兵器産業史 武器移転の経済史的研究』（経営史学、41巻3号、平成一八年一二月、88～91頁）

【二〇〇七年】

〔書評〕「奈倉文二・横井勝彦編著『日英兵器産業史 武器移転の経済史的研究』（『エネルギー史研究』、22号、平成一九年三月、73～75頁）

〔資料紹介・解題〕「『異郷の炭鉱——三井山野鉱強制労働の記録——』を読んで——嘘や捏造、誤聞、伝聞を排す——」（『エネルギー史研究』、22号、平成一九年三月、解説（73～75頁） 資料（77～93頁））

〔資料紹介・解題〕三輪他「三菱商事紐育支店『事業報告書』（石炭研究資料叢書、平成一九年三月、28輯、解説（4～8頁） 資料（9～217頁））

〔共著書〕「楊慶敏、三輪『中国のエネルギー構造と課題——石炭に依存する経済成長——』（九州大学出版会、九大アジア叢書9、はじめに、序章、第

7章、平成一九年三月）

〔その他〕「部門の概要 1. 産業経済資料部門」（『九州大学附属図書館付設記録資料館ニューズレター』Vol.1、平成一九年三月、2～4頁）

〔発表〕「戦時における航空機用揮発油の技術開発」（化学史学会、愛知県立大学、平成一九年六月）

〔その他〕「戦前・戦時中の航空機用揮発油の技術開発——海外技術導入と独自技術——」（文部科学省科学研究費補助金特定領域研究『日本の技術革新

——経験蓄積と知識基盤化——研究成果集』(二〇〇七年度)、第三回フォーラム報告、平成一九年八月、59～62頁)

〔講演〕「太平洋戦争とハルノート」(九州英数学館国際言語学院、平成一九年九月)

〔その他〕「戦前期の航空機用揮発油の技術開発」(国立科学博物館『第3回国際シンポジウム』『日本の技術革新——経験蓄積と知識基盤化——』研究発表会論文集、平成一九年二月、69～72頁)

〔辞典〕「高田利種」(『近現代日本人物史料情報辞典3』、吉川弘文館、平成一九年二月、162～165頁)

【二〇〇八年】

〔その他〕「戦前・戦中期の航空機用揮発油の技術開発——海外技術導入と独自開発——」(国立科学博物館、『日本の技術革新——経験蓄積と知識基盤化——研究成果集』、平成二〇年二月、59～62頁)

〔科研費報告書〕「戦前・戦時中の航空機用揮発油の技術開発——海外技術の独自技術——」、課題番号20460008(平成一八年度～一九年度文部省科学研究費補助金 特定領域研究「日本の技術革新——経験蓄積と知識基盤化——」研究成果報告書、平成二〇年三月)

〔その他〕「新館長挨拶」(『九州大学附属図書館付設記録資料館ニューズレター』Vol.2、平成二〇年三月、1頁)

〔発表〕「戦時期日本の航空機用ガソリン製造——海外技術と独自技術——」(大阪経済大学日本経済史研究所、経済史研究会、平成二〇年六月七日)

〔発表〕「資料収集・保存と公開の問題点——私の経験と危惧——」(東アジア近代史学会、中央大学後楽園キャンパス、平成二〇年六月)

〔発表〕「資産凍結後の石油代金をめぐる日米交渉」(日本国際政治学会、つくば国際会議場、平成二〇年一〇月)

〔資料集刊行〕資料集『米国司法省戦時経済局対日調査資料集』(第一巻に解説、全五巻、クロスカルチャー出版、平成二〇年一月)

〔発表〕「資産凍結後の石油代金をめぐる日米交渉東北亜細亜文化学会」(釜慶大学校、釜山市、平成二〇年一月)

【二〇〇九年】

〔資料紹介・解題〕「長澤定夫回想録(その二)の補遺(インタビューから)」(『エネルギー史研究』、24号、平成二一年、75～76頁)

〔論文〕「ドイツの石炭液化成功物語と日本の技術選択の失敗——航空機用ガソリンを巡って——」(大阪経済大学日本経済史研究所『経済史研究』、12号、平成二二年二月、63～80頁)

〔その他〕「館長挨拶」(『九州大学附属図書館付設記録資料館ニューズレター』Vol.3、平成二一年三月、1頁)

〔講演〕「金任植理事長回顧録を読んで」(東義大学校 韓国 釜山市、平成二二年三月)

- 〔その他〕「旧石炭研究資料センター所蔵資料の特徴と概要」（九州大学附属図書館貴重文物講習会 19、平成二十二年四月一四日、レジュメ）
- 〔講演〕「金任植回顧録と李栄薫『大韓民国の物語』を読んで」（東義大学校 韓国 釜山市、平成二十一年九月）
- 〔その他〕「海軍の技術選択の失敗——航空機用ガソリンと石炭液化」、国立科学博物館、『第5回シンポジウム 日本の技術革新——経験蓄積と知識基盤化——研究論文発表会 論文集』（平成二十二年二月、27～30頁）

【二〇一〇年】

- 〔資料紹介・解題〕「宮島庚子郎氏関連資料——『井陘時代』を中心に——」（『石炭研究資料叢書』、31輯、平成二十二年二月、解題（75～78頁） 資料（79～114頁））
- 〔書評〕「李栄薫教授の勇氣と知性——『大韓民国の物語』を読んで——」（大阪経済大学日本経済史研究所『経済史研究』、第13号、平成二十二年二月、191～198頁）
- 〔その他〕「戦前・戦時中の日本海軍の航空機用揮発油の技術開発——成功なのか、失敗なのか——」（国立科学博物館『日本の技術革新大全』、非売品、平成二十二年三月、277～282頁）
- 〔発表〕「The Failure of the Japanese Synthetic Oil Production Project for Aviation Gasoline: Economic Sanction and the Pacific War against the U.S. in 1941, Association for Asian Studies」（アメリカアジア学会、米国 Philadelphia、平成二十二年三月、パネル）
- 〔翻訳書監修〕「監修者 あとがき」『金任植回顧録 森が茂れば鳥が飛んでくる——釜山の発展とともに——』（花書院、平成二十二年四月、257～266頁）
- 〔講演〕「資源問題を考える——太平洋戦争と石油から考える——」（東義大学校 韓国 釜山、平成二十二年五月）
- 〔インタビュー記事〕「一九四一年、開戦までのアメリカ」（NHK取材班編著『日本人はなぜ戦争へとむかったのか 下』、NHK出版、平成二十二年六月、163～181頁）
- 〔その他〕「National Archives II（米国国立公文書館）の実践的利用法」（『九州大学附属図書館研究開発室年報』2009/2010、平成二十二年八月、68～75頁）
- 〔パネルディスカッション〕「第二部 ライブラリーを科学する」倉田敬子、高山正也、植松貞夫、富浦洋一、三輪宗弘（九州大学大学院統合新領域ライブラリーサイエンス専攻シンポジウム「ライブラリーを科学する」、平成二十二年二月）

【二〇一一年】

- 〔その他〕解説「裸にされた貿易商社（太平洋戦争と在米商社）」（『エネルギー史研究』、二六号、平成二十三年三月、1～4頁）

〔共著書〕「石炭液化とイソオクタン製造にみる日本の技術水準——米独の航空機用揮発油製造技術と戦時の技術移転」（松永、吉岡、施編『知の加工学』事始め 受容し、加工し、発信する日本の技法』、新宿書房、平成二三年三月、126～148頁）

〔発表〕「A full embargo and the decision making of waging war: two views prevailed from first to last. Association for Asian Studies」(アメリカアジア学会、米国 Honolulu、パネル Deterioration of Japan-US Economic Relations leading to Pearl Harbor: the role of the US economic sanctions、平成二三年三月)

〔その他〕「ハルノートと日米暫定協定案」日米交渉とハル国務長官（その一）(『ワシントンDC日本商工会会報五月号』、433号、平成二三年五月、12～13頁)。

〔その他〕「ハルノートと日米暫定協定案」日米交渉とハル国務長官（その二）(『ワシントンDC日本商工会会報六月号』、434号、平成二三年六月、12～13頁)

〔講師〕「九州大学の炭鉱資料」(旧石炭資料研究センター所蔵) (朝日カルチャーセンター福岡、九州大学百周年記念事業特別講座第二期 (4～9月)、平成二三年六月一日)

〔その他〕「ハルノートと日米暫定協定案」日米交渉とハル国務長官（その三）(『ワシントンDC日本商工会会報七月号』、435号、平成二三年七月、14～16頁)

〔発表〕「野村吉三郎文書から読み解く日米関係」(社会経済史学会九州部会、九州産業大学、平成二三年七月)

〔講演〕「太平洋戦争開戦と対日経済制裁——日米強硬論の論理——」(嘉麻市歴史民俗講座、嘉穂生涯学習センター、平成二三年七月)

〔その他〕「米国立公文書館本館、米国立公文書館サンフランシスコ分館、スタンフォード大学フーバーアーカイブの利用の手引」(『九州大学附属図書館研究開発室年報』、2010/2011、平成二三年八月、56～64頁)

〔その他〕「日独伊三国同盟と野村吉三郎（その一）」(『ワシントンDC日本商工会会報八月号』、436号、平成二三年八月、10～11頁)

〔その他〕「日独伊三国同盟と野村吉三郎（その二）」(『ワシントンDC日本商工会会報九・一〇月号』、437号、平成二三年一〇月、24～26頁)

〔資料集刊行〕麻生太吉日記編纂委員会『麻生太吉日記 第一巻』(全五巻、九州大学出版会、編集委員、平成二三年一月)

〔その他〕「採鉱学科実習報告書」、「麻生家文書」、「宮崎太郎文書」、「海軍大学校選科学生の渡辺伊三郎『思い出の記』に書かれた恐ろしい教授列伝」、「牧歌的な史料館と史資料の継承」、「九州大学百年の宝物」(丸善プラネット株、平成二三年一月、66～67、82、178～181、198頁)

〔講演〕「戦時中から戦後復興——筑豊の田川から日本を語る——」(香春町歴史資料館特別企画「激動の昭和初期展」にて、平成二三年一月)「パネルディスカッション」(「記録情報管理人材の育成と人材市場の形成に向けて」(川田、真辺、小原、三輪、九州大学大学院統合新領域ライブラリー

サイエンス専攻シンポジウム報告書「レコードマネジメントが組織と社会を変える」、平成二三年一月、26～40頁)

〔報告〕「アーキビスト認定制度へのコメント」（日本アーカイブズ学会のアーキビスト資格認定制度検討委員会、筑波大学東京キャンパス文京校舎、平成二三年一二月）

【二〇二二年】

〔受託研究〕「熊本県総務部総務私学局県政情報文書課との間で「会計に関する行政文書の廃棄に係る歴史公文書の選別基準に関する研究」に関する受託研究契約を締結」（平成二四年毎年契約更新。平成二六年度から名称変更して「行政文書の廃棄に関わる歴史公文書の選別基準に関する研究」となる。今日まで継続）

〔書評〕「Planning for Empire: Reform Bureaucrats and the Japanese Wartime State, Social Science Japan Journal, Volume 15, Issue 2, 2012, Pages 297~300.」（平成二四年二月）

〔発表〕「統一論題 地域から世界へ」（経営史学会第四七回全国大会討議報告）（『経営史学』、46巻4号、平成二四年三月、100~106頁）

〔その他〕折田悦郎、三輪「九州大学大学院「ライブラリーサイエンス専攻」について——記録管理・アーカイブに大いなる夢を託して——」（『全国歴史資料保存利用機関連絡協議会『記録と史料』第二二号、平成二四年三月、78~82頁）

〔講演〕「日本のエネルギー展望」（桑名鉄工協同組合、桑名市、平成二四年五月）

〔講演〕「麻生太吉日記と麻生家文書」（第五三回九州大学附属図書館貴重文物展示ギャラリートーク、九州大学中央図書館、平成二四年五月）

〔講演、動画配信〕「太平洋戦争開戦経緯の研究を振り返って——思索し、資料を探し求めて——」（<https://www.youtube.com/watch?v=H4ED1ruFjk>、第10回「ライブラリーサイエンスの現在」連続講演会、九州大学中央図書館 新館四階 視聴覚ホール、平成二四年六月二七日）

〔その他〕「英国国立公文書館（TNA）、大英図書館（BL）、帝国戦争記念館リサーチルームの実践的利用法」（『九州大学図書館研究開発室年報』2011/2012、平成二四年七月、43~50頁）

〔その他〕「『日炭回顧録』の刊行に寄せて」（日炭回顧録の会『日炭回顧録』、弦書房、平成二四年八月、5~9頁）

〔発表〕「Aviation Gasoline Technology Transfer beyond Borders during the Second World War」（ヨーロッパ経営史学会、フランス社会科学高等研究院、パリ、平成二四年九月）

〔論文〕「利用者の視点からみた米国国立公文書館——丸裸にされた軍事関係文書を追い求めて」（情報科学技術協会『情報の科学と技術』、62巻10月号、平成二四年一〇月、415~421頁）

〔発表〕「対米開戦通告の一五時間遅延の謎——陸軍参謀本部なのか、外務省なのか」（日本国際政治学会、名古屋国際会議場、平成二四年一〇月二一日）

〔資料集刊行〕麻生太吉日記編纂委員会『麻生太吉日記 第二卷』（全五巻、九州大学出版会、編集委員、平成二十四年一月）
〔報告〕「第二次世界大戦期の航空機用ガソリンの生産と技術移転——敵味方を超えて——」（六甲フォーラム、神戸大学、平成二十四年一月二六日）

【二〇一三年】

〔その他〕「歴史手帖 対米開戦通告の一五時間遅延の謎——在華府日本大使館への責任転嫁は可能なのか——」（『日本歴史』二〇一三年九月号、七八四号、平成二五年九月、41～44頁）

〔その他〕「巻頭言「刊行に寄せて」」（『夢野久作と杉山3代研究会』会報民ヲ親ニス、創刊号、平成二五年九月、4～5頁）

〔書評〕「荒川憲一『戦時経済体制の構想と展開』（『経営史学』、48巻3号、平成二五年二月、78～80頁）

〔資料集刊行〕麻生太吉日記編纂委員会『麻生太吉日記 第三巻』（全五巻、九州大学出版会、編集委員、平成二五年二月）

〔講演〕「太平洋戦争と石油——日米はなぜ戦ったのか——」（大連大学日本語学院、大連市、平成二五年二月一〇日）

【二〇一四年】

〔書評〕「天野雅敏著『戦前日豪貿易史の研究——兼松商店と三井物産を中心にして』（大阪経済大学『経済史研究』、17号、平成二六年一月、123～132頁）

〔報告〕「Aviation Gasoline Technology Transfer during the Second World War: Japan, Germany, and the United States.」（USJI ウィークセミナー、ワシントン

DC、平成二六年二月二五日）

〔資料紹介・解題〕「第一〇二海軍燃料廠主要装置説明書（昭和十八年一月）」（『石炭研究資料叢書』、35号、平成二六年三月、102～132頁）

〔資料紹介・解題〕「野村吉三郎「非常時と我が国防」（『石炭研究資料叢書』、35号、平成二六年三月、134～145頁）

〔資料紹介・解題〕「野村吉三郎「非常時と我が国民の覚悟」（『石炭研究資料叢書』、35号、平成二六年三月、148～165頁）

〔報告〕「Aviation Gasoline Technology Transfer during the Second World War: Japan, Germany and the U.S.A.」（国際経営史学会、フランクフルト、平成二六年三月一七日）

〔海外の大学での講演〕「エネルギーと日本の近代化——持続的な経済成長に向けて——」（山東交通学院、済南市、平成二六年五月二八日）

〔その他〕「巻頭言「美しい国での出来事」（『夢野久作と杉山3代研究会』会報民ヲ親ニス、二号、平成二六年八月、4～5頁）

〔その他〕「オーストラリア国立公文書館、オーストラリア国立図書館、オーストラリア戦争記念館リサーチセンターの利用ガイド——首都キャンベラで

の資料探索——」（『九州大学図書館研究開発室年報』2013/2014、平成二六年一〇月、1～7頁）

〔講義〕「地域とアーカイブズ」(平成二六年度アーカイブス・カレッジ、短期コース、福岡市博物館、国文学研究資料館主催、平成二六年一月)
〔講師〕「太平洋戦争開戦経緯と石油」(放送大学 放送大学北九州市会場(黒崎コムシティ)、平成二六年二月二〇日、二二日)
〔資料集刊行〕麻生太吉日記編纂委員会『麻生太吉日記 第四巻』(全五巻、九州大学出版会、編集委員、平成二六年二月)

【二〇一五年】

〔その他〕「全国歴史資料保存利用機関連絡協議会(全史料協)の全国大会を開催して」(『九州大学附属図書館付設記録資料館ニューズレター』Vol.9、平成二七年三月、1～2頁)

〔書評〕「橋川武郎著『日本石油産業の競争力構築』」(経営史学会『経営史学』、49巻4号、平成二七年三月、58～60頁)

〔講師〕「太平洋戦争開戦経緯と石油」(放送大学 放送大学北九州市会場(黒崎コムシティ)、平成二七年五月九日、一〇日)

〔パネル参加〕「USJ ウィークリーセミナー」(於 ワシントンDC) パネルの Discussant Japan's Asia policy and the US Rebalancing: Challenges and Opportunities (平成二七年九月一日)

〔その他〕「巻頭言「夏目漱石とマックス・ウェーバー」二人が嫌った考え方」(『夢野久作と杉山三代研究会』会報民ヲ親ニス、三号、平成二七年九月、4～5頁)

【二〇一六年】

〔論文〕「対米開戦通告の遅延と外務省の訂正電報——第九〇三号と第九〇六号の東京発電信時刻と日本大使館配達時刻——」(『エネルギー史研究』、31号、平成二八年三月、1～24頁)

〔講師〕「真珠湾攻撃と対米開戦通告遅延」(朝日カルチャーセンター福岡、平成二八年七月二九日)

〔その他〕「テキサス大学オースティン校ブリスコセンター(The Dolph Briscoe Center for American History)の利用ガイド——Exxon Mobil資料を中心に——」(『九州大学附属図書館研究開発室年報』2015/2016、平成二八年八月、6～11頁)

〔研究会報告〕「戦時動員と移入朝鮮人労働者——2年契約と賃金——」(落星岱経済研究所・ソウル、平成二八年九月一〇日)

〔資料集刊行〕麻生太吉日記編纂委員会『麻生太吉日記 第五巻』(全五巻、九州大学出版会、編集委員、平成二八年一月)

〔その他〕「巻頭言「正解のない歴史認識の難しさ」」(『夢野久作と杉山三代研究会』会報民ヲ親ニス、四号、平成二八年二月、4～5頁)

〔報告〕「近代記録と強制動員——戦時期の移入朝鮮人労働者——賃金と2年契約——」(東亜大学校、釜山、平成二八年二月二七日)

【二〇一七年】

〔大学史（電子版）〕「第五編第二章 戦時体制の形成（一九三一～一九四五） 第二節 戦時体制の形成と教育・研究」、「第五編第三章 学徒動員・学徒出陣と敗戦（一九四一～一九四五） 第一節 研究動員」（『九州大学百年史第1巻——通史編Ⅰ』）https://www.lib.kyushu-u.ac.jp/ja/publications_kyushu/qu100h（平成二九年三月）

〔大学史（電子版）〕「第二八編第五章第六節 付設記録資料館（2）産業経済資料部門」（九州大学百年史第6巻：部局史編Ⅲ）https://www.lib.kyushu-u.ac.jp/ja/publications_kyushu/qu100h（平成二九年三月）

〔論文〕「ユネスコも啞然？韓国「日帝強制動員歴史館」の嘘八百」（『歴史通』（二〇一七年春号）、二〇一七年四月号、平成二九年三月、121～131頁）

〔発表〕「戦時期移入朝鮮人労働者の賃金と2年契約——北海道・常磐・九州の炭鉱企業の資料を読み込んで——」（「20世紀と日本」研究会、京都大学芝蘭会館、平成二九年三月）

〔辞典〕「人造石油」、「石炭液化」、「石油」、「石油化学」「三池炭鉱」（化学史学会編『化学史辞典」、化学同人、平成二九年三月、338頁、372～374頁）

〔その他〕「三井物産とソコニーの揮発油販売交渉」（『三井文庫資料 私的一点』、三井文庫叢書50号別冊、平成二九年五月、242～243頁）

〔講演〕「戦時期移入労働者・三池争議」（大牟田市史編さんシンポジウム「日本史の中の三池炭鉱」、平成二九年六月一〇日）

〔資料集改訂版刊行〕『米国司法省戦時経済局対日調査資料集（改訂版）』（第一巻に解説あり、全五巻）、クロスカルチャ出版、平成二九年八月

〔講演〕「石油ではじまり、石油で敗けた太平洋戦争——資源の安全保障を考える——」（黒正塾、大阪経済大学、平成二九年九月）

〔論文（再掲載）〕「ユネスコも啞然？韓国「日帝強制動員歴史館」の嘘八百」（写真を追加して再掲載、『歴史通』（WILL 一一月増刊）、平成二九年一一月、145～158頁）

【二〇一八年】

〔資料紹介・解題〕中村隆英「炭鉱賃金の決定機構——序説」（『エネルギー史研究』、33号、平成三〇年三月、219～232頁）

〔報告〕「戦時中の朝鮮人徴用工の賃金と貯金について——炭鉱企業の資料からわかること——」（『圓光大学校円仏教思想研究院、韓国 益山市、平成三〇年四月二七日）

〔報告要旨〕「戦時中の朝鮮人徴用工の賃金と貯金について——炭鉱企業の資料からわかること」（『圓光大学校円仏教思想研究院』第二二一回圓光大学校圓佛教思想研究月例研究発表会資料集』、平成三〇年四月、ハンゲル19～25頁、日本語26～35頁）

【二〇一九年】

- 〔報告〕「何を残すべきなのか——熊本県公文書への私のチャレンジと日本への提言」(大阪大学社会学共創連続セミナー第4回「地域の記録を守り伝える——公文書館の課題と未来」、大阪大学会館二一世紀懷徳堂スタジオ、平成三十一年三月一八日)
- 〔著書(単書)〕『めからウロコの海外資料館めぐり』(クロスカルチャー出版、令和元年六月、163頁)
- 〔論文〕「真に重要な資料の保存を——熊本県での文書管理・廃棄を評価する立場から」(『新聞研究』、794号、令和元年九月、〇頁)
- 〔講義〕「アーカイブズ・レコード・マネジメント論」(二〇一九年度アーカイブズ・カレッジ、短期コース、くまもと森都心プラザ図書館、国文学研究資料館主催、令和元年二月五日)

【二〇二〇年】

- 〔資料紹介・解題〕「永野修身元帥手記(東京裁判関係)」(『エネルギー史研究』、35号、令和二年三月、47～58頁)
- 〔資料紹介・解題〕「日本石炭協会保安部『炭鉱災害統計表』(昭和廿四年六月二十五日作製)」(『エネルギー史研究』、35号、令和二年三月、59～66頁)
- 〔その他〕「汪兆銘政権人名録を刊行して——研究余滴——」(九州大学統合新領域学府ライブラリーサイエンス専攻、Annual Report 2019/2020、令和二年三月、19頁)
- 〔その他〕「目からウロコの海外資料館めぐり」を書き上げて」(九州大学統合新領域学府ライブラリーサイエンス専攻、Annual Report 2019/2020、令和二年三月、18頁)
- 〔TV出演〕日本テレビ報道局・BS日テレ「深層NEWS」(「徴用工公示送達期限 どうなる日韓」)出演(令和二年八月四日)
- 〔書評〕「横井勝彦編『航空機産業と航空戦力の世界的転回』」(『経営史学』、55巻3号、令和二年二月、64～66頁)

【二〇二一年】

- 〔資料紹介・解題〕「満州及び北鮮から帰還した同胞の体位並に栄養状態に関する統計学的研究(第二報 北鮮同胞)」(『エネルギー史研究』、36号、令和三年三月、117～123頁)
- 〔特別寄稿〕「分断する社会と結末——独善を打ち破る記録資料の使命」(記録管理学会『レコード・マネジメント』、80号、令和三年三月、3～17頁)
- 〔共著書〕「何を残すべきなのか——熊本県公文書への私のチャレンジと日本への提言」(大阪大学アーカイブズ編『アーカイブズとアーキビスト——記録を守り伝える担い手たち』、大阪大学出版会、令和三年四月)

〔その他〕「資源小国」日本の資源調達——海外に依存する構造」(『ハンドブック日本経済史 徳川期から安定成長期まで』、ミネルヴァ書房、令和三年十二月、210～213頁)

【二〇二二年】

〔大学史(紙版)〕資料紹介「第二章 戦時体制の形成(一九三一～一九四五) 第一節 戦時体制の形成と教育・研究——九州大学百年史から」(『エネルギー史研究』、三七号、令和四年三月、101～106頁)

〔大学史(紙版)〕資料紹介「第三章 学徒動員・学徒出陣と敗戦(一九三一～一九四五) 第一節 研究動員——九州大学百年史から」(『エネルギー史研究』、三七号、令和四年三月、107～118頁)

〔その他〕「元徴用工の事実検証で真実を明らかに——日韓関係改善のために韓国政府は調査を——」(『日本時事評論』、令和四年十一月四日、二〇〇三号、令和四年二月、4～5頁)

【二〇二三年】

〔社史〕「日本の経済成長と石炭近代化・工業化の牽引役」、「戦時中から閉山まで——生産性の向上を追及して」麻生グループ一五〇周年プロジェクト委員会編『麻生百五十年史』(株)麻生、非売品、石炭産業全般を監修、令和五年二月、708～715頁、846～895頁)

〔資料紹介〕「大阪府「工場事業場等学徒労働員ノ報償取扱細目」」(『エネルギー史研究』、38号、令和五年三月、95～105頁)

〔大学史(紙版)〕資料紹介「九州大学百年史(三輪宗弘執筆、付設記録資料館)」第二八編第五第六節 付設記録資料館「九州大学記録資料館『エネルギー史研究』、38号、令和五年三月、107～114頁)

〔その他〕「翻弄される日韓関係と事実確認の大切さ——徴用工判決と歴史認識——」(『レインボー通信』、374号、令和五年四月、35～42頁)

〔その他〕「吉岡先生と私——不思議な縁——」(中山正敏・綾部広則編『吉岡斉を語る／吉岡斉が語る』、花書院、令和五年五月、177～179頁)

〔共著書〕「裁判で歴史事実を認定できるのか——詐欺的誘惑や過酷な労働実態は事実ですか」(大阪経済大学日本経済史研究所『歴史からみた経済と社会』、思文閣出版、令和五年一〇月、643～666頁)

〔その他〕「海外アーカイブ訪問記——釜山の国立日帝強制動員歴史館「犯罪人名簿」(『RMSJ News Letter』、104号、令和五年一〇月、12～13頁)」「講演」「日本産業近代化に石炭産業が果たした役割」(宮若市リコリス、令和五年一〇月一二日)

〔講演〕「熊本県における公文書等の評価・選別について」(大分県公文書館記録史料保存セミナー、大分県立図書館視聴覚ホール、令和五年二月一六日)
〔論文〕「人造石油研究の広がり——日米開戦と及川海相、独の航空機用ガソリン製造とP Bレポート——」(『化学史研究』、50巻4号、185号、令和五年
一二月、10～22頁)

【二〇二四年】

〔資料紹介・解題〕「昌寧郡靈山面『犯罪人名簿』解題と『犯罪人名簿』」(『エネルギー史研究』、39号、令和六年三月、103～115頁)
〔その他〕「学外研究員の田中直樹先生の叙勲」(九州大学附属図書館付設記録資料館ニューズレターVol.18、令和六年三月、7～8頁)
〔その他〕「司令官失格の烙印を受ける——有馬学先生の後継者という誉——」(『足跡／秀村選三記念誌』非売品、令和六年七月、362～364頁)

【二〇二五年】

〔その他〕「履歴と業績」(『エネルギー史研究』、40号、令和七年三月、1～18頁)
〔その他〕「熊本県公文書の評価選別に携わって」(九州大学附属図書館付設記録資料館ニューズレターVol.19、令和七年三月、7～9頁)
〔その他〕「専攻挨拶 ライブラリーサイエンス専攻長として」(九州大学統合新領域学府ライブラリーサイエンス専攻、Annual Report 2024/2025、令和
七年三月、2頁)

〔その他〕「退職するにあたって——とんでもない学校法人での経験と知的好奇心の大切さ——」(九州大学統合新領域学府ライブラリーサイエンス専攻、
Annual Report 2024/2025、令和七年三月、11頁)

〈主要学会活動(理事、編集委員)〉

平成一九(二〇〇七)年一月 経営史学会 編集委員(二〇一〇年二月まで)
平成二三(二〇一一)年一月 経営史学会 理事(二〇一四年二月まで)
平成二七(二〇一五)年一月 社会経済史学会 理事(二〇二〇年二月まで)
令和 三(二〇二二)年六月 記録管理学会 理事(現在に至る)
令和 三(二〇二二)年六月 記録管理学会 編集委員長(現在に至る)

その他所属した学会は以下の通り。

軍事史学会、化学史学会、科学史学会、中小企業学会、日本アーカイブズ学会、東アジア近代史学会、九州経済学会、アメリカアジア学会

付記 ゴチック（太字）は、代表的な研究を示している。